

令和6年度

事業計画
一般会計予算



 日本赤十字社 奈良県支部
Japanese Red Cross Society

－ 目 次 －

I. 令和 6 年度 基本方針	1
II. 令和 6 年度年間活動予定	2
III. 令和 6 年度 事業計画		
1 災害救護体制の強化	4
2 赤十字講習の充実	9
3 青少年赤十字の育成	11
4 国際活動の推進	12
5 救護看護師の養成	13
6 血液事業の推進	13
7 赤十字ボランティアの育成	14
8 効果的な広報の展開	19
9 活動資金の募集及び表彰制度	20
10 奈良県支部有功会	23
IV. 令和 6 年度 一般会計予算		
1 令和 6 年度 一般会計予算	24
2 令和 6 年度 活動資金募集お願い額一覧表	25

I. 令和6年度 基本方針

日本赤十字社奈良県支部の各事業につきまして、皆さまの深いご理解とご支援のもと推進することができ、心より感謝申し上げます。

日本赤十字社では、「人間のいのちと健康、尊厳を守る」ことを使命として、様々な赤十字事業を展開しています。

本年1月、石川県能登地方を震源とする最大震度7を観測する地震が発生し、広範囲にわたり人的被害、住宅被害をもたらしました。日本赤十字社では、発災直後から医療救護活動、心のケア活動、救援物資の配布、赤十字ボランティアによる支援など、全社を挙げて災害救護活動を展開しております。奈良県支部でも、第4ブロック(近畿2府4県)支部と連携を図り救護班を派遣し、避難所での救護活動を行ったほか、義援金の受付など、継続して被災者支援に取り組んでいます。

また、世界各地でも、紛争の激化や、気候変動に伴う自然災害の多発など、さまざまな問題に直面しており、赤十字が取り組むべき人道的課題が山積しています。昨年発生したイスラエル・ガザでの大規模な武力衝突による被害や、いまだ続くウクライナでの紛争では、国際赤十字が一丸となり救援活動に取り組んでおり、日本赤十字社も、直ちに海外救援金の募集を開始し、国際赤十字を通じて、救援物資や医薬品の調達、安否調査など多岐にわたる活動を続けています。

日本赤十字社は、これまで国内外の災害や紛争時等において人道支援団体として、社会的役割を果たしてきましたが、一方で、特に国内では、近い将来発生が危惧される「南海トラフ地震」などの大規模地震発生時に備え、NPOなど多様な支援団体との連携、防災・減災の知識・技術のさらなる普及や少子高齢社会の推進に伴うニーズの正確な把握など、日本赤十字社を取り巻く環境は、加速的に変化しており、社会における赤十字活動のあり方が問われるようになっていきます。

奈良県支部では、そのような外部環境の変化に対応するため、平時から他団体との連携を強めるとともに、従前から実施している救護資機材の整備など、災害救護体制の更なる強化や、自助・共助の重要性を踏まえた地域や学校における防災・減災への取組みを普及してまいります。そして、急速に進展する少子高齢社会に対応するため、いざという時に役立つ赤十字講習や、大切ないのちを救う血液事業の推進など、健康・医療・福祉等に関する活動に取り組めます。

さらに、これらの活動を支えていただいている地域奉仕団をはじめとする赤十字ボランティアや青少年赤十字の育成・強化を図ります。

今後とも、日本赤十字社の使命に基づき、県民の皆さまからお寄せいただく貴重な活動資金を効果的に活用し、以下の取組みについて、目標を明確にして計画的に推進してまいります。

- | | | | |
|---|-----------|---|--------------|
| 1 | 災害救護体制の強化 | 6 | 血液事業の推進 |
| 2 | 赤十字講習の充実 | 7 | 赤十字ボランティアの育成 |
| 3 | 青少年赤十字の育成 | 8 | 効果的な広報の展開 |
| 4 | 国際活動の推進 | 9 | 活動資金の募集 |
| 5 | 救護看護師の養成 | | |

II. 令和 6 年度年間活動予定

月	月	名称	場所
4	奉仕団地区委員会(4月~6月)	各市町村	令和6年度支部・奉仕団事業計画
	岡山ハンセン病施設訪問	岡山県	奈良県人会との交流
	救急法基礎講習会	奈良市	手当の基本、心肺蘇生、AEDの使用法
	安全法指導赤十字奉仕団総会	奈良市	令和5年度事業報告、令和6年度事業計画
	無線・救護赤十字奉仕団総会	支部	令和5年度事業報告、令和6年度事業計画
	青少年赤十字賛助奉仕団総会	支部	令和5年度事業報告、令和6年度事業計画
	赤十字事務担当者会議	橿原市	令和6年度事業計画、活動資金募集の留意点
5	赤十字運動月間	県内各地	赤十字事業の広報活動、活動資金協力依頼
	救護班基礎研修会	奈良市	救護活動に必要な知識と技術の習得
	救急法基礎・救急員養成講習会	奈良市	心肺蘇生、AEDの使用法、止血・包帯法、骨折の固定、搬送、災害時の心得 など
	健康生活支援講習支援員養成講習	支部	高齢者の健康と安全、地域における高齢者支援 など
	幼児安全法支援員養成講習	支部	子どもの応急手当、一次救命処置 など
	災害時要配慮者生活支援講習	支部	知って役立つ知識、非常食作り、応急手当 など
	青少年赤十字指導者協議会	支部	令和6年度青少年赤十字の活動について
	全国赤十字大会参会	東京都	式典：有功章等受章、アトラクション：講演
	支部監査委員会	支部	令和5年度事業報告、決算概要
6	第4ブロック(近畿)合同災害救護訓練	和歌山県	本部訓練、現場救護所訓練、避難所アセスメント、避難所救護所訓練 など
	水上安全法救助員I養成講習会	大和郡山市	水の事故防止、泳ぎの基本と自己保全 など
	奉仕団支部委員会	支部	研修会の打合せ、奉仕団交流会の概要
	支部評議員会	支部	令和5年度事業報告、決算概要
7	救急法基礎講習会	奈良市	手当の基本、心肺蘇生、AEDの使用法
	地域奉仕団リーダー研修会	橿原市	ボランティアリーダーを養成する研修
	有功会総会	奈良市	令和5年度事業・決算報告、令和6年度事業計画
	献血キャンペーン7月~8月	各市町村	街頭献血呼び込み
8	救急法基礎・救急員養成講習会	奈良市	心肺蘇生、AEDの使用法、止血・包帯法、骨折の固定、搬送、災害時の心得 など
	青少年赤十字トレーニングセンター	奈良市	赤十字学習、フィールドワーク
	親子で学ぶ防災教室	支部	非常食作り、応急手当 など
9	災害時要配慮者生活支援講習	支部	知って役立つ知識、非常食作り、応急手当 など
	赤十字フェスタ 2024 in なら	大和郡山市	赤十字事業のPR
10	奈良県防災総合訓練	未定	医療救護、傷病者搬送
	看護専門学校推薦入試	支部	

月	月	名 称	場 所	
10		救急法基礎講習会	奈良市	手当の基本、心肺蘇生、AEDの使用法
		安全法指導奉仕団研修会	支部	講習内容の確認 など
		赤十字奉仕団交流会	奈良市	地域奉仕団と特殊奉仕団の交流
11		防災教育事業指導者養成研修会	橿原市	災害時の備え、防災啓発プログラム
		救急法基礎講習会	奈良市	手当の基本、心肺蘇生、AEDの使用法
		幼児安全法支援員養成講習	支部	子どもの応急手当、一次救命処置 など
		災害時要配慮者生活支援講習	支部	知って役立つ知識、非常食作り、応急手当 など
12		奈良マラソン救護	奈良市	救護活動
		救急法基礎・救急員養成講習会	橿原市	心肺蘇生、AEDの使用法、止血・包帯法、骨折の固定、搬送、災害時の心得 など
		青少年赤十字児童生徒交流会	奈良市	NHK 海外たすけあい募金、赤十字学習
		NHK 海外たすけあいキャンペーン	各市町村	街頭募金、NHK 奈良放送局での受付 など
		有功会連絡協議会	奈良市	地区有功会活動報告 など
1		地区分区防災倉庫貸与式	支部	覚書の締結、防災倉庫取扱い説明
		救急法基礎講習会	奈良市	手当の基本、心肺蘇生、AEDの使用法
		親子で学ぶ防災教室	支部	非常食作り、応急手当 など
		はたちの献血キャンペーン(1月～2月)	各市町村	街頭献血呼び込み
2		救急法基礎・救急員養成講習会	大和郡山市	心肺蘇生、AEDの使用法、止血・包帯法、骨折の固定、搬送、災害時の心得 など
		健康生活支援講習支援員養成講習	支部	高齢者の健康と安全、地域における高齢者支援 など
		災害時要配慮者生活支援講習	支部	知って役立つ知識、非常食作り、応急手当 など
		奉仕団支部委員会	支部	令和6年度事業中間報告、令和7年度事業計画
		支部評議員会	支部	令和7年度事業計画、予算概要
3		防災ボランティア研修会	支部	災害時におけるボランティア活動の技術習得 など
		看護奉仕団研修会	支部	災害時における看護活動の技術習得 など
		近畿大学農学部赤十字奉仕団総会	奈良市	活動報告、役員改選 など
		有功会理事会	奈良市	役員改選、有功章会員加入状況等報告
随時		地区有功会総会	各市町村	令和5年度事業・決算報告、令和6年度事業計画
未定		こころのケア研修会	支部	こころのケア活動に必要な知識と技術の習得
		BHELP 研修	支部	避難所での災害対応に必要な知識と技術の習得
		近鉄西大寺駅デジタルサイネージ広告	奈良市	赤十字活動のPR
		救急法指導員養成講習会	支部	
		青少年赤十字指導者養成講習会	奈良市	青少年赤十字活動を推進する指導者を養成
		青少年赤十字賛助奉仕団研修会	未定	防災教育指導者の養成
		無線・救護赤十字奉仕団一泊研修会	支部	通信訓練 など

III. 令和6年度事業計画

I 災害救護体制の強化 ―災害からいのちを守る―

国内において、地震や大型台風などの災害で被災された方々を救うため、救護班の編成と訓練、救護資機材・救援物資の整備、防災ボランティアの研修など、災害救護体制の強化を図ります。また、被災された方々のための義援金の募集活動も行います。

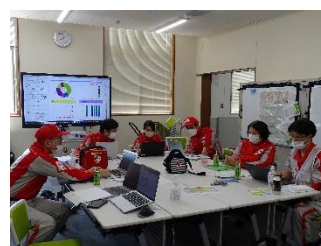
(1) 救護班の編成と訓練

- ① 適切かつ迅速な災害救護活動が展開できるよう、第4ブロック(近畿)支部の連携強化と災害対応能力向上を目的として、第4ブロック合同災害救護訓練(和歌山県:6月15日)に奈良県支部、委託契約を締結している医療救護班、医療コーディネーター及び防災ボランティアが協働して参加します。

また、行政主催の奈良県防災総合訓練などに関係機関として参加し、DMATをはじめとする医療関係団体や、消防、警察、自衛隊などの団体と連携強化を図ります。



▲第4ブロック(近畿)合同災害救護訓練
～避難所での巡回診療～



～本部での情報収集～



▲県防災総合訓練
～避難所アセスメント～



～防災ボランティアによる担架搬送～

【医療救護班】

名称	班数	備考
奈良県総合医療センター	2班	平成26年4月1日委託契約締結 (地方独立行政法人 奈良県立病院機構)
奈良県西和医療センター	2班	
南奈良総合医療センター	1班	平成28年4月20日委託契約締結
市立奈良病院	1班	平成26年4月1日委託契約締結
大和高田市立病院	1班	平成26年9月1日委託契約締結
奈良県立医科大学附属病院	1班	平成28年11月1日委託契約締結
合計	8班	

◆1班の体制:医師1名・看護師3名・主事1名・調整員1名 計6名

- ② 昨年度の日本赤十字社大規模地震対応計画見直しに伴い、同計画を遂行するため、救護員体制の再構築を図るとともに、日赤災害医療コーディネーターを中心に奈良県支部と委託契約を結んでいる医療救護班（医師、看護師、主事等）を対象に新たな救護員育成体系に基づく研修を実施し、救護員の更なる質の向上と新たな要員確保を図ります。支部主催では、継続して実施している救護員基礎研修、こころのケア研修に加え、今年度は※¹ BHELP 研修を実施し、本社主催では、全国救護班研修（第4ブロック共催）、日赤災害医療コーディネート研修などに積極的に参加します。

※¹ BHELP 研修…避難所での活動を効果的・効率的に実施するため、災害対応における知識、共通の言語と原則の理解、被災者の生活と健康の維持など災害発生直後から対応できる知識と技術を習得する。



▲救護班基礎研修：支部主催



▲こころのケア研修：支部主催

- ③ 県内で災害が発生した際に対応できるよう、日赤災害医療コーディネーターとの調整を行い、災害に対応できる体制を構築します。
- ④ 大規模災害が発生した際、支部の備蓄のみでは十分な活動ができないことから、迅速かつ的確な災害救護を実施できる体制を構築するため、企業・団体との災害時物資支援協定に取り組みます。
- ⑤ 地域コミュニティにおける「自助」と「共助」の力を高め、自ら災害からいのちを守り、被災時の心身の苦痛を軽減することを目指した「防災講習」を開催します。

※次のカリキュラムから必要なものを選択・組み合わせて講習を開催できます。

㊦ 赤十字防災セミナー ～発災後の予備知識～

・災害への備え

災害・防災についての考え方や、災害別に想定される被害などから、平時の備えの重要性について理解を深めます。

・災害エスノグラフィー

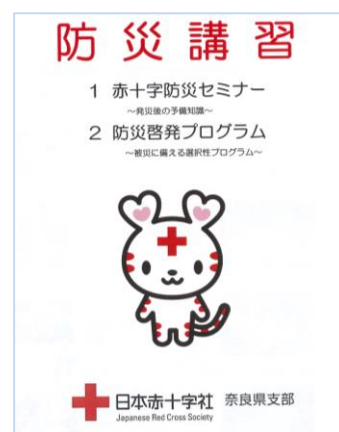
過去の災害を追体験するための読み物で、読むことにより災害の全体像を理解し、次に何が起こるかを想像するための力を養います。

・災害図上訓練 DIG

自らの居住地域で、防災上の資源や災害時に出現する危険性を地図に明記し、個人や地域単位であらかじめ行うべき取り組みについて検討し理解を深めます。

・避難所運営ゲーム HUG（ひなんじょたいけん）

避難所の運営を任された立場となり、図面に家族構成、年齢、性別、職業、持病の有無など事情の異なる避難者カードを配置していき、さまざまな事情を抱えた避難者をどう対処していくか、模擬体験できます。



▲防災講習用パンフレット



▲赤十字防災セミナー

・家具安全対策ゲーム KAG

令和6年度から新たに※2「家具安全対策ゲーム(KAG)」がプログラムに変わりました。地震で起こる被害をどのように減らすか、自宅(部屋)の平面図を描くことにより、危険な場所を把握し、自らが家具の安全対策の必要性について理解を深めます。

① 防災啓発プログラム ~被災に備える選択性プログラム~

災害と避難生活をあらかじめ知ることで、被災に備える知識と技術を学ぶことを目的としたプログラムになっており、災害への備え、避難所での生活支援、いのちを守るための知識が学べます。

(2) 救護資機材・救援物資の整備

① 南海トラフ地震などの大規模災害における災害救護活動を強化するため、救護資機材整備計画に基づき、必要な資機材の整備を行います。(令和4年度~令和6年度:3カ年計画)

【主な救護資機材整備計画(令和4年度~令和6年度:3カ年計画)】

区分	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
無線機		・無線機ハンディー機(400MHz) ・無線基地局整備(150MHz) ・無線基地局アンテナ交換工事	・可搬型無線機(400MHz, 150MHz)	
車両		・災害救援車(地区分区分備) ・災害救援車(支部軽自動車)	・災害救援車(地区分区分備) ・災害救援車(支部ワンボックス)	・災害救援車(トラック)
倉庫		・災害救援車庫修繕 ・資機材整備用パレット ・ターンテーブル		・防災倉庫(地区分区分備)
救護員教材		・AEDトレーナー ・蘇生法教育人体モデル	・AEDトレーナー ・蘇生法教育人体モデル	・AEDトレーナー ・蘇生法教育人体モデル
救護資機材		・AED本体更新(支部) ・組立式トイレ(地区分区分備) ・ハイゼックス(非常炊飯袋)	・AED本体更新(地区分区分備) ・蓄電池(地区分区分備)	・非常食の備蓄 ・ヘルメット(ボランティア用)



▲防災倉庫(地区分区分備:イメージ)



▲ヘルメット(ボランティア用:イメージ)

② 被災者のニーズに沿うよう、救援物資(布団、安眠セット、緊急セット、毛布、タオルケット、バスタオル、ブルーシート)の備蓄と配布を引き続き行います。また、不慮の火災などで亡くなられた被災者には弔慰金(1人当たり20,000円)を届けます。



▲毛布



▲安眠セット



▲緊急セット



▲ブルーシート



▲タオルケット

【救護資機材の整備】※()内の数字は、令和6年度に新たに追加・更新整備を予定しています。

— 奈良県支部 —

品名		数量	品名		数量
救護班 装備品	医療資機材携行用靴(1セット4バック)	7	救護所 資機材	大型フレームテント	1
	救護班要員携行バック	30		エアertent(大型:117°リット式)	2
	大型救急箱	5		エアertent(小)	1
	パルスオキシメーター	9		組立式テント	6
	電子体温計(非接触体温計含む)	23		ワンタッチテント(大3・小4)	7
	ターニケット(止血帯)	50		プライベートテント	1
	自動体外式除細動器(AED)	3		間仕切り用プラテーション(2種類)	30
救護班要員 装備品	救護服:上下	196		簡易トイレ(ラップポン)	11
	ヘルメット	30		簡易トイレ用ワンタッチテント	12
	救護服:雨衣	30		自家発電機(ガソリンタイプ)	6
	救護服:防寒衣	30		蓄電池(大1・小2)	3
	救護服:Tシャツ	140		投光器	5
	防護メガネ	20		誘導灯	5
	救護員手袋	80		冷暖房機器 (冷暖房器:2、暖房器:1、冷房器:3)	6
	LEDヘッドライト	10		診察台	8
	懐中電灯	10		折畳式寝台	80
	ペンライト(ホルダー付)	30		簡易ベッド	6
	寝袋	50		傷病者用毛布	70
	万能ハサミ	20		スクープストレッチャー	3
	ホイッスル	50		担架	8
	非常食 (本部・救護班用)	アルファ米		500(400)	担架架台
パン		100		組立式点滴架台	1
ドライスープ(2種)		200(200)		電動吸引機	1
にゅうめん		100(100)		LEDランタン	9
惣菜(4種)		250(100)		拡声器	3
携帯おにぎり		100		リヤカー(大・小)	各1
水(500ml)		960		レスキューカー	2
ようかん(5本入)		17		フォークリフト	1
資機材 原子力対応		空間線量率測定用サーベイメータ	1	移動炊飯器	8
	防護服セット	6	通信 機器	業務用無線基地局(150MHz・)	2
	デジタル個人線量計	7		業務用無線陸上移動局(車載機)(〃)	4
支援要員 資材	ボランティアユニフォーム	40		業務用無線陸上移動局(携帯機)(〃)	9
	ボランティア反射チョッキ	50		業務用無線現地基地局(可搬型)(〃)	2
	ボランティア帽子	50		アマチュア無線局	1
	ボランティアヘルメット	30(30)		室外設置用外部アンテナ(衛星携帯電話用)	3
	防寒衣	59		デジタル通信システム (D-STARレピーター)	2
	雨衣(白色・黄色)	50		特定小電力トランシーバー	10
災害 車両	災害通信指揮車(衛星電話搭載)	1		携帯電話	1
	救急車	1		データ通信端末	1
	災害救援車	5		デジタルカメラ	3
	救護資機材運搬トラック	1(1)		災害用PC・タブレット	3
教材 救護員	AEDトレーナー	28(9)		災害用テレビモニター	1
	蘇生法教育人体モデル(全身)	12(6)		衛星携帯電話	3
	蘇生法教育人体モデル(半身)	6			
	蘇生法教育人体モデル(幼児)	5(5)			
	蘇生法教育人体モデル(乳児)	2(2)			

一 地区区分(市町村) 一

品名		数量	品名	数量
災害対応資機材	災害救援車	52	ワンタッチテント(大)	24
	移動炊飯器	53	自動体外式除細動器(AED)	30
	自家発電機:ガソリンタイプ 1600W	22	自家発電機:ガソリンタイプ 900W	3
	投光機	36	自家発電機:プロパンタイプ 850W	11
	組立式トイレ(車いす対応型)	19	防災倉庫:2.26 坪	7(7)
	蓄電池	27	防災倉庫:1.99 坪	2(2)

【救援物資の備蓄】(令和5年12月末現在)

毛 布	緊急セット	安眠セット	布 団	バスタル	ブルーシート	タオルケット
3,116 枚	1,364 セット	1,127 セット	430組	1,192 枚	741枚	1,509 枚

(3) 国内義援金及び海外救援金の募集活動

被災者支援のため、各種団体及び各報道機関の協力のもと、国内義援金及び海外救援金の募集活動を行います。

【令和6年度募集の国内義援金及び海外救援金】

募集名		募集期限
国内義援金	令和6年能登半島地震災害義援金	令和6年12月27日

【令和5年度国内義援金受付実績表:令和5年12月末現在】(単位:円)

義援金募集名	件数	金額	募集期限	前年度までの累計
令和5年5月能登地方地震災害義援金	20	199,037	令和5年9月29日	
令和5年台風第2号大雨災害義援金	14	158,643	令和5年9月30日	
令和5年6月30日からの大雨災害義援金	22	682,679	令和5年12月29日	
令和5年7月7日からの大雨災害義援金	27	858,702	令和6年3月29日	
令和5年台風第6号災害義援金	13	631,263	令和5年11月30日	
令和5年台風第13号災害義援金	15	639,794	令和5年12月31日	
合計	111	3,170,118		0

【令和5年度海外救援金受付実績表:令和5年12月末現在】(単位:円)

救援金募集名	件数	金額	募集期限	前年度までの累計
中東人道危機救援金	3	3,600	令和6年3月31日	193,164
バングラデシュ南部避難民救援金	3	3,600	令和6年3月31日	71,432
アフガニスタン人道危機救援金	3	3,600	令和6年3月31日	27,244
ウクライナ人道危機救援金	70	3,547,740	令和6年3月31日	31,461,774
2023年トルコ・シリア地震救援金	125	3,250,430	令和5年5月31日	7,076,386
2023年アメリカ・ハワイ火災救援金	9	297,273	令和5年10月31日	
2023年モロッコ地震救援金	4	43,775	令和5年11月30日	
2023年アフガニスタン地震救援金	2	17,198	令和5年12月29日	
イスラエル・ガザ人道危機救援金	3	25,883	令和6年3月31日	
2023年リビア洪水救援金	4	37,325	令和5年11月30日	
合計	226	7,230,424		38,830,000



▲奈良学園高等学校



▲ライオンズクラブ国際協会
335-C 地区 I22Z



▲川上村

2 赤十字講習の充実 いざという時に備えてー

心肺蘇生やAEDの使用方法を学ぶ救急法をはじめ、いざという時にすぐに役に立つさまざまな講習を実施します。また、自治会・町内会など地域防災力を高める活動として、地区分区へ働きかけ、小冊子「災害への備え」などを活用した防災・減災のための講習会を積極的に取り組んでいきます。

(1) 地区分区と共催による地域での講習会

地区分区と共催による地域での講習普及に取り組めます。(令和4年度～3カ年計画: 39地区分区すべての開催を予定しています。)地域住民を対象に、救急法講習、防災・減災に関する講習、幼児安全法講習を開催し、費用は無償とします。

講習名		内容	時間	備考
救急法基礎講習		手当の基本(観察、体位)、気道異物の除去 心肺蘇生、AEDを用いた電気ショック	4時間	修了証交付
幼児安全法 乳幼児の一次救命処置		乳幼児の心肺蘇生、気道異物除去	3時間	受講証交付
防災・減災に 関する講習	災害への備え	災害別に想定される被害についてなど	1時間	
	災害エスノグラフィー	読み物による過去の災害の追体験	2時間	
	災害図上訓練 DIG	地域防災マップづくり	2時間	
	避難所運営ゲーム HUG	避難所運営の疑似体験	2時間	
	家具安全対策ゲーKAG	自宅での安全対策	2時間	
	防災啓発プログラム	被災に備える選択性プログラム	2時間～	

◆開講、閉講式、休憩時間、検定時間は含んでおりません。地区分区と共催による講習のみ費用は無償です。

◆お問い合わせ等については、奈良県支部事業推進課までお願いします。

(2) 金色有功章受章企業を対象とした講習会

※³金色有功章を受章した企業を対象に、赤十字講習を無料(講師料・教材費)で開催します。

※³金色有功章受章企業:活動資金として一時または累計で50万円以上を納められた企業



▲各種講習教本

(3) 救急法等の講習会

救急法講習、水上安全法講習、健康生活支援講習、幼児安全法講習を、講習指導資格を有する安全法指導赤十字奉仕団にご協力いただき、以下のとおり開催します。

令和5年度は、県内地域で186回開催し、延べ 5,313 人(令和 5 年12月末現在)の方に受講いただいています。

【奈良県支部主催の救急法等講習会普及計画】

講習会区分	実施日	場所	時間
救急法	4月:基礎	奈良市	基礎:9時30分~15時30分 養成:9時30分~17時30分
	5月:基礎・養成	奈良市	
	7月:基礎	奈良市	
	8月:基礎・養成	奈良市	
	10月:基礎	奈良市	
	11月:基礎	奈良市	
	12月:基礎・養成	橿原市	
	令和7年1月:基礎	奈良市	
	令和7年2月:基礎・養成	大和郡山市	
指導員養成	未定	支部	
水上安全法	救助員Ⅰ養成講習 6月2日(日)・8日(土)・ 9日(日)・13日(木)	大和郡山市	9時30分~17時
健康生活 支援講習	5月	支部	9時30分~16時00分
	令和7年2月		
災害時要配慮者生活支援講習	5月	支部	9時30分~15時30分
	9月		
	11月		
	令和7年2月		
幼児安全法	5月	支部	9時~17時
	11月		

❖受講人数の制限、消毒資材・顔認証体温計の設置、マスク着用など感染予防対策を行います。

❖上記講習は受講費がかかります。

❖お問い合わせ・お申し込みは、奈良県支部事業推進課までお願いします。



▲救急法



▲水上安全法



▲健康生活支援講習



▲幼児安全法



▲災害時要配慮者生活支援講習

3 青少年赤十字の育成 ー思いやりを育むー

(加盟校:132校 幼稚園・保育所:28校 小学校:73校 中学校:21校 高等学校:9校 中等教育学校:1校)

将来をにやう児童・生徒が、自ら「気づき・考え・実行する」という生きる力を養うため、先生等の青少年赤十字指導者の協力のもと、学校教育の現場で豊かな人間性や社会性を育む活動に取り組みます。

(1) 防災教育の普及推進

- ① 学校における防災教育の充実を図るため、県内の全加盟小学校・中学校・高等学校に配布済みの青少年赤十字防災教育「まもるいのち ひろめるぼうさい」の積極的な活用を働きかけるとともに、新たな加盟校には教材の配布を行います。また、新しい指導者を養成するため、教職員対象の研修会において、防災教育プログラムの活用を推進します。
- ② 幼稚園、保育園向け防災教育教材「ぼうさいまちがいがさし きけんはっけん!」を未加盟園に紹介し、加盟普及に努め、配布を希望された加盟園に提供します。



▲防災教育プログラム
「まもるいのち ひろめるぼうさい」



▲幼稚園、保育園向け防災教育教材
「ぼうさいまちがいがさし きけんはっけん!」



- ③ 親子で学ぶ防災教室を開催します。

奈良県青少年赤十字指導者協議会と協働して、非常食作り体験、ラップやビニール袋など身近なものを使った手当、毛布ガウンやホットタオルなど非常時に対応できる知識について学びます。



▲心肺蘇生の方法



▲身近なものを使った応急手当



- ④ 国際人道法の普及や国際理解の教育及び防災教育を推進するため、県内の学校などへ指導者を派遣します。

(2) 青少年赤十字への加盟促進

- ① 「青少年赤十字活動支援事業(助成金3万円の交付)」を通じて、青少年赤十字加盟校が取り組む自主的かつ積極的な活動を支援します。
- ② 県内の青少年赤十字未加盟校に対して、青少年赤十字賛助奉仕団の協力を得ながら未加盟校を訪問し、加盟に努めます。

(3) 青少年赤十字メンバーのリーダーシップ育成

- ① 活動計画などを取り決めるため、奈良県青少年赤十字指導者協議会の開催(随時)と、若い世代の青少年赤十字指導者を養成するための講習会を開催します。
また、第4ブロック(近畿)青少年赤十字指導者研修会や本社主催指導者研修会などに参加し、指導者の育成に取り組みます。
- ② 青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングセンターを開催します。
集団生活を通じて、リーダーとして必要な自主・自律の精神を身につけ、赤十字や青少年赤十字活動に関する知識や技術への理解を深め、生活態度全般にわたって学びます。
(奈良市:8月上旬)



▲フィールドワーク



▲防災グループワーク



▲身近なものを使った応急手当

- ③ 高校生を対象に青少年赤十字活動の中心となるリーダーを養成することを目的に、青少年赤十字スタディ・センターに参加します。(令和7年3月:山中湖村)

4 国際活動の推進 ―世界とつながる―

世界191の国と地域にある赤十字の一員として、本社の要請のもと、災害や紛争等で苦しむ人々の緊急救援や復興支援に協力します。奈良県支部では本社と連携して次の事業を行います。

(1) 緊急救援

- ① ウクライナ人道危機など、海外で発生する紛争や大規模災害等被害者の救援金募集活動を行います。(随時)
- ② ジュネーブ諸条約に基づき、行方不明者や家族と連絡が取れない方々の安否調査を市町村の協力のもと、実施します。(随時)



▲ウクライナ人道危機
ウジュホロドに派遣中の仲里薬剤師
(大阪赤十字病院所属)

(2) 復興支援

- ① バングラデシュ保健医療支援事業に資金協力します。
- ② 「NHK 海外たすけあい」キャンペーンを NHK 等と共同で実施します。(12月1日~25日)



▲バングラデシュ保健医療支援事業
心理社会的支援の活動に参加する
避難民の女の子たちと会話する日赤要員

(3) 赤十字思想の普及・啓発

- ① 本社、第4ブロック(近畿)主催の国際人道法セミナーに参加し、国際人道に関する知識を習得するとともに、国際人道法への理解促進のための啓発活動を行います。

5 救護看護師の養成 ー国内外で活躍できる看護師をー

豊かな人間性と看護に関する幅広い能力と、救護の専門知識を兼ね備えた看護の実践者を育成するため、京都第二赤十字看護専門学校に委託し、救護看護師の養成を行います。

なお、看護大学及び京都第二赤十字看護専門学校を対象に奨学金の支援も行います。

奈良県支部では、これまでに 40 名の看護師を養成しています。



▲実技演習の授業風景



▲戴帽式

6 血液事業の推進 ー献血にご協力を!!ー

奈良県赤十字血液センターでは、国民の善意の献血により支えられている血液事業の運営が適切かつ効率的に執行され、透明性が確保されているかを検証し、必要に応じて事業の見直しを図るとともに、積極的な情報発信を行い、採血業・販売業において「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」等の関係法令に則った適正な事業運営を行います。

- ① 安全な血液製剤を安定的に医療機関にお届けするため、合理的・効率的な供給に努めます。
- ② 輸血を受ける患者さんの副作用の軽減、血液製剤の安全性の確保及び事業効率の観点から 400mL 献血・成分献血を推進し、医療機関の需要に応じた計画的な採血に努めます。
- ③ 若年層を対象とした献血者確保対策を実施します。
- ④ 広く県民への献血の普及啓発を図るため、ホームページ、X(旧 Twitter)、ラジオ放送、イベント等の展開を基軸とした各種キャンペーンを実施し、効果的な普及活動を行います。
- ㊦ はたちの献血キャンペーン(1月1日~2月28日)、愛の血液助け合い運動(7月1日~8月31日)、全国学生クリスマス献血キャンペーン(12月)、近畿統一キャンペーン(3月)等を実施します。
- ① 小学生を対象とした「献血まるわかりゼミ」、高校生・大学生・県内企業の新入職員を対象とした「献血セミナー」を実施します。
- ㊦ 新聞広報による「はたちの献血キャンペーン」と「愛の血液助け合い運動」の啓発記事を掲載します。(奈良県支部有功会提供)



7 赤十字ボランティアの育成 ー活動を支えるー

“赤十字ボランティアは、地域社会を住みよくしよう”という気持ちを持った人々の集まりで、災害救護や献血の推進、講習会の普及などの赤十字事業の推進をはじめ、地域社会のニーズに応じた幅広い活動に積極的に参加、協力いただいています。

奈良県支部では、赤十字ボランティアの自主性を尊重し、地域のニーズに応えた魅力ある活動を支援してまいります。

(1) 地域赤十字奉仕団(団数及び団員数:39 団、2,605 人) 昭和 23 年発足

市町村の地域ごとに結成され、地域単位で活動計画を立案し、奉仕活動を行います。全体の取組みとして、赤十字事業の普及と推進、ハンセン病療養施設訪問(岡山県)、地区委員会や研修会などを開催します。また、地域活動では、活動資金への協力を始め、防災訓練やイベントでの非常食づくり・配布への参加、献血協力の呼びかけ、クリーンアップならキャンペーンの参加、海外たすけあい募金活動と受付業務の協力などのほか、老人ホームでの交流や地域での清掃活動等に取り組みます。

① 「地域赤十字奉仕団活動促進助成金」により奉仕団活動を支援します。

令和元年度から5年間実施してきた「地域赤十字奉仕団活動促進助成金」事業をリニューアルし、地域奉仕団が抱えている高齢化や団員の減少への対策、地域住民の方に奉仕団の存在や活動への理解を深める広報などの活動に対し助成金を交付し、奉仕団のさらなる活動促進と、健康で安心に暮らせる共同社会の構築に寄与します。

対象事業(下線:リニューアルにより追加した事業)

赤十字思想の普及啓発、高齢者及び子どもの見守り、ふれあいサロン等の交流会、地域の健康増進活動、地域の防災・減災のための講習開催、団の広報活動、新規団員募集のための活動

【令和5年度活動実績:令和5年12月末現在】

奉仕団名	事業名	内容
奈良市地区赤十字奉仕団 大宮分団	みんなで夕食会 大宮	一人暮らしや夫婦だけの高齢者が月に一度集まり、にぎやかに食事をする事により、高齢者の引きこもり防止と健康維持を目的に開催した。
	いきいき歌声サロン大宮	孤立する地域の高齢者がひきこもることなく仲間・居場所づくりが出来る場の提供と、歌うことによる介護予防と健康増進を図ることを目的に開催した。
	ポッチャをやって楽しもう!大宮	障害の有無、年齢に関係なく、レクリエーションとして気軽に楽しめるスポーツ「ポッチャ」を通じて、幅広い世代に赤十字活動の普及啓発を行った。
奈良市地区赤十字奉仕団 左京分団	おきがる食事会	地域の子供たちの「ふれあいの場」「居場所づくり」を目的に小さな子供から高齢者の方まで幅広く交流し、食事を通して絆を深めることを目的に開催した。
安堵町赤十字奉仕団	出前防災講習会	講習会を開催しても、出かけられない高齢者が多いのが現状で、町内の各自治会、公民館へ出向き、より多くの方を対象に、防災への知識を持ってもらうために、講習会を開催した。

- ② モデル奉仕団には助成金を交付し、活動の充実に努めます。

安堵町赤十字奉仕団(団員:45人)

【モデル活動名:災害救護に関する活動】

令和6年度から令和8年度の3年計画で、「防災講習」の受講、町内での防災講習普及活動、一日赤十字の実施、紙芝居作製などに取り組みます。

- ③ 地域奉仕団と特殊奉仕団の交流を深め、連携を強化することで、活動の活性化及び災害時に協働できる関係を構築することを目的に、奉仕団交流会を開催します。
- ④ 地域奉仕団のリーダーを育成するためのリーダー研修会を実施します。
- ⑤ 県内全体の事業活動の取組方針を決定するための支部委員会の開催と県内奉仕団の交流、連携を深めるための意見交換会の開催の他、各地区内の事業活動の取組方針を決定するための地区委員会を開催します。



▲支部委員会



▲意見交換会



▲ハートラちゃんぬいぐるみ作製

- ⑥ 奉仕団活動の促進のため、奉仕団中央委員会、支部指導講師研修会などに出席します。
- ⑦ 奉仕団活動への理解を深め、活動への参加を促し、新たな奉仕団員を確保するため、ホームページ等を活用し、奉仕団活動の紹介を行います。
- ⑧ ハンセン病療養施設訪問事業(岡山県:昭和27年からの継続事業)を行います。



▲ふれあい交流会



▲納骨堂お参り



▲園内施設見学

- ⑨ 地域ニーズに応じたモデル奉仕団活動や、独自活動(一日赤十字開催や地域イベントとのコラボなど)のほか、講習普及活動、青少年赤十字活動の協力、献血協力の呼びかけ、クリーンアップキャンペーンに参加します。



▲奈良市地区赤十字奉仕団
～青少年赤十字トレーニングセンターでの食事協力～



▲安堵町赤十字奉仕団
～一日赤十字～



▲香芝市赤十字奉仕団
～香芝中学校・海外救援金募金活動～

- ⑩ 防災・減災教育事業として、地域の住民を対象として防災講習や赤十字運動の紙芝居などを実施し、赤十字思想の普及に努めます。



▲大和高田市赤十字奉仕団
～元気フェスタ・赤十字ブース～



▲香芝市赤十字奉仕団
～防災講習～



▲山添赤十字奉仕団
～ハイゼックスを使った防災食教室～

- ⑪ 地域内での「法人会費」及び「国内義援金・海外救援金」の募集活動、「NHK海外たすけあい」の募集活動及びNHK奈良放送局での受付に協力します。



▲橿原市赤十字奉仕団
～近鉄大和八木駅～



▲宇陀市赤十字奉仕団
～プライスカット榛原福地店～



▲生駒郡奉仕団地区委員会
～いかるがホール～

(2) 安全法指導赤十字奉仕団(団員:113人)昭和52年発足

赤十字講習指導員有資格者で組織され、健康で安全に暮らすための知識と技術を伝える講習を普及します。

- ① 赤十字救急法、健康生活支援講習、幼児安全法、水上安全法、災害時要配慮者生活支援講習の講習普及とともに、赤十字思想の普及、活動資金への協力依頼・使いみちについての啓発活動等を行います。
- ② 防災・災害救護訓練への参加及び指導的役割を発揮できるよう技術の向上を図ることを目的とした研修会(10月)を開催します。
- ③ イベントなどでの講習普及活動に努めます。



▲研修会



▲総会



▲講習指導

(3) 無線・救護赤十字奉仕団(団員:14人)昭和47年発足

昭和47年「無線赤十字奉仕団」として発足、平成25年に現在の名称に変更

アマチュア無線技士の資格を生かし、災害時の情報収集や伝達活動を担うため、通信訓練や救護活動を行います。

- ① 非常時の連絡通信体制の整備並びに県内及び他府県との無線伝播調査を実施します。

- ② 防災・災害救護訓練に参加します。
- ③ イベントなどでの救護活動や通信連絡活動を行います。



▲伝搬調査



▲総会



▲第4ブロック合同災害救護訓練
ボランティア活動に参加

(4) 青年赤十字連絡協議会(団員:127人)

奈良県青年赤十字奉仕団(4名:昭和60年発足) 近畿大学農学部赤十字奉仕団(117名:平成4年発足)

奈良大学学生赤十字奉仕団(6名:平成24年発足)

勤労青年や大学生で組織され、献血の呼びかけや青少年赤十字のサポートなどの活動を行います。また、県内の大学等に学生奉仕団の結成を呼びかけます。

- ① 赤十字思想の普及と献血推進、国内外で発生した災害義(救)援金募集活動を行います。
- ② ※¹ ピアリーダー研修会(京都府支部主催)、赤十字 7 原則に関するセミナー(※²YABC研修会)や第4ブロック(近畿)リーダー養成研修会に参加します。

※¹ ピアリーダー研修会:HIV/AIDS等の基礎知識及びピア・エデュケーションの実施に必要な知識及び技術を修得することにより、HIV/AIDSピア・エデュケーションの中心となり、活動を推進するピア・リーダーの養成を図ります。

※² YABC 研修会:赤十字7原則への理解を深め、自らの考え・行動を前向きに変容させ、周囲にも変容を促しながら、社会をより良く変える力を身に付けるために開発されたYABCの普及の担い手となるユースボランティアを育成します。

- ③ 防災、災害救護訓練に参加します。
- ④ 青少年赤十字活動のサポートを行います。
- ⑤ 救急法救急員資格の習得に努めます。
- ⑥ 県内の大学や短大へ奉仕団結成の呼びかけを行います。



▲燈花会サポート活動



▲赤十字フェスタスタッフ協力



▲NHK 海外たすけあい街頭募金

(5) 看護赤十字奉仕団(団員:44人)昭和48年発足

看護師の資格を有する人たちで結成され、公共性の高い行事の臨時救護などの活動を行います。

- ① 地域への貢献のため、公共性の高い行事等の臨時救護や付添救護活動を通じて地域活動に協力します。(奈良マラソン、県スポーツ大会、地域イベント等)
- ② 防災、災害救護訓練に参加します。

③ 技術の向上を図るための研修会を開催します。(令和7年3月)



▲奈良マラソンでの救護活動



▲付添救護



▲研修会

(6) 青少年赤十字賛助奉仕団(団員:17人)

昭和39年「賛助会」として発足、平成14年に現在の名称に変更

青少年赤十字の指導に当たっていた先生で組織され、青少年赤十字指導者やメンバーの活動を側面から支えています。

- ① 第4ブロック(近畿)支部主催の研修会・交流会に参加します。また、本社主催の総会などにも参加します。
- ② 学校における防災教育を広めるため、青少年赤十字防災教育「まもるいのち ひろめるぼうさい」の出前授業ができる指導者を養成する研修会を実施します。
- ③ 地域において、地域赤十字奉仕団と連携し、「地域で子どもを育てる」をキャッチフレーズにして、地域の安心・安全活動に取り組みます。
- ④ 青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングセンター(奈良市:8月)や親子で学ぶ防災教室(奈良市:8月)に協力します。
- ⑤ 青少年赤十字活動の加盟校増強や防災教育事業普及に協力します。
- ⑥ 青少年赤十字指導者養成事業への協力、助言などを行います。



▲親子で学ぶ防災教室での指導



▲トレーニングセンターでの指導

(7) 防災ボランティア(個人登録20名)平成9年発足

支部に個人登録し、災害発生時における救援活動を行います。

- ① 被災者支援に役立つ知識・技術が習得できる研修会に参加します。
- ② 防災、災害救護訓練に参加します。
- ③ 年4回の赤十字NEWSの発送業務に協力します。

8 効果的な広報の展開 ―活動へのご理解とご参加を―

災害救護活動や国際活動など人道的な活動を行っている赤十字の事業内容を、幅広く県民に知っていただき、赤十字ボランティアへの参加、社会貢献のための事業参加、活動資金の募集への理解を深めるため、新聞広告等を通じて、効果的な広報活動を行います。

また、大型商業施設にて「赤十字フェスタ」を開催し、赤十字活動のPRを行います。



▲「赤十字フェスタ 2023 in なら」～イオンモール大和郡山～

(1) 支部の広報活動

- ① 日本赤十字社が全国統一で実施する「赤十字会員増強運動月間」(5月)をはじめ、年間を通じて広報活動に取り組みます。
- ② テレビ放送(運動月間:5月及び随時放送)での広報活動(奈良テレビ、コミュニティビジョン吉野ケーブルテレビ、下市テレビ)も行います。
- ③ 報道機関に対して、支部事業等の開催状況や、本社作成の広報資材をもって広報の協力を依頼します。(随時)
- ④ 赤十字活動を広く知ってもらうため、広報誌「日赤なら」(5月に20万部)を作成し、配布します。また、新聞折込チラシ(4月・6月・10月)による広告掲載により、県民への広報に努めます。
- ⑤ 「赤十字を知ってもらう」をコンセプトに、県内で最も乗降客及び乗換利用客が多い近鉄大和西大寺駅でデジタルサイネージ広告を実施し、目に留まる広報活動を行います。
- ⑥ 「奈良県支部版赤十字この一年」ショートバージョンを制作し、YouTube などでの発信を行います。
- ⑦ 赤十字活動全般のPRと、遺贈、相続寄付をターゲットとしたWEBバナー広告による広報活動を行います。
- ⑧ ホームページで、赤十字事業や活動の紹介、情報発信等、積極的な広報を行います。

(2) 地区分区(市町村)への広報活動

- ① 広報誌「日赤なら」を、各自治会等を通じて県民に配布します。また、本社作製のポスターとパンフレットの配布も依頼します。
- ② 各地区分区発行の広報誌に、運動月間や講習会開催など記事の掲載を依頼します。
- ③ 地区分区(市町村)主催イベント(1日赤十字など)や自治会主催イベント(防災訓練など)に広報パネルやのぼり等資材を貸し出します。



▲大和高田市赤十字奉仕団



▲香芝市赤十字奉仕団

(3) 第4ブロック(近畿) 合同広報活動

- ① 啓発資材(ポケットティッシュ)3万個を作成し、イベント等で配布し広報を行います。

9 活動資金の募集及び表彰制度 ー活動資金にご協力を!!ー

日本赤十字社は、会員等の皆さまから納めていただく会費と、広く皆さまからお寄せいただく寄付金(これら会費と寄付金を総称して「活動資金」という。)を財源として、災害救護活動や国際活動をはじめ、事業計画に基づく人道的活動を展開します。

活動資金の募集を取り巻く環境は厳しいものがありますが、地区分区、赤十字奉仕団、自治会、日赤有功会をはじめ広く県民の皆さまの赤十字活動に対するご理解を深めながら、活動資金へのご協力をお願いしてまいります。

また、寄付者情報の管理体制の充実、個人情報セキュリティの強化、業務の効率化を図ってまいります。

(1) 支部の活動資金取り組み

- ① 地区分区、自治会、町内会や赤十字奉仕団を通じて協力を依頼します。
- ② 地区分区、地域奉仕団と連携し、法人会員への訪問による活動資金の協力を依頼します。
- ③ 県内の幼・小・中・高等学校へ赤十字募金への協力を依頼します。
- ④ 個人・法人へのダイレクトメールによる活動資金協力を依頼します。
- ⑤ 赤十字講習の普及並びに法人会員の増強を図ることを目的に、金色有功章受章企業を対象に赤十字講習を無料(講師料・教材費)で提供します。また、金色有功章に達していない企業に対しては、赤十字講習無料特典のPRを行い、会費増強に繋がります。
- ⑥ 奈良県商工会連合会や奈良県中小企業団体中央会の協力のもと、活動資金協力を依頼します。
- ⑦ 企業の社会貢献活動との連携(寄付金付自販機の設置・活動資金募金箱の設置・赤十字支援マークの活用)、企業・団体と災害時協定の締結、災害に備えた救護装備品の寄贈などに取り組みます。
- ⑧ 遺贈、相続財産によるご寄付の取り組みとして、金融機関等にパンフレットの設置や、金融機関などと連携し遺贈、相続財産に関する協定を締結します。

【寄付金付自販機設置状況】

寄付金付自販機設置先	設置場所
奈良県奈良土木事務所	奈良市
(株)RISING SUN	橿原市
(有)三輪そうめん天寿堂	桜井市
中造園	葛城市
道の駅ふたかみパーク當麻	葛城市
シンシアペットクリニック	三郷町



▲寄付金付自動販売機

【活動資金募金箱設置状況】

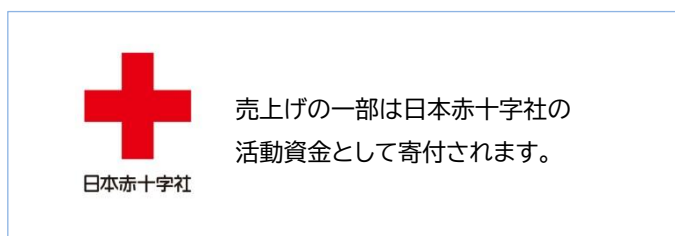
活動資金募金箱設置先	設置場所	活動資金募金箱設置先	設置場所
インプレス	奈良市	シプレカントリークラブ	五條市
東大寺	奈良市	秋津原ゴルフクラブ	御所市
奈良中央信用金庫南奈良支店	奈良市	奈良中央信用金庫二上支店	香芝市
奈良柳生カントリークラブ	奈良市	宇陀カントリークラブ	宇陀市
医療法人厚生会奈良厚生会病院	大和郡山市	オークモントゴルフクラブ	山添村
中華料理 橘	大和郡山市	県立万葉文化館	明日香村
奈良県立医科大学(財)弘済会	橿原市	大和信用金庫	県内各支店
奈良カントリークラブ	五條市		

【災害時物資支援協定の締結】

締結先	設置場所
板倉石油(株)	奈良市
一般社団法人奈良県LPガス協会	奈良市
(株)八尾彦商店	王寺町

【支援マークの締結】

締結先	設置場所
山本松産業(株)	天理市
(株)サンシーワールド	御所市



▲支援マークの一例

(2) 本社の活動資金取り組み

- ① ホームページからのクレジットカード決済による会員加入や口座振替による協力依頼に取り組みます。
- ② コンビニエンスストアにある情報端末を使ってのご寄付、各種サービスでカードに付与されるさまざまなポイントを利用してのご寄付、スマートフォンアプリによるご寄付など、寄付への利便性を高め、若年層の協力者の確保に取り組みます。

(3) 表彰制度について

多額の活動資金を納入された個人や法人等については、国や日本赤十字社の表彰制度が適用されます。

① 日本赤十字社の有功章贈与・表彰制度

項目		表彰基準
1.	支部長表彰状・感謝状	活動資金として一時または累計で10万円以上を納められた個人・法人等
2.	銀色有功章	活動資金として一時または累計で20万円以上を納められた個人・法人等
3.	金色有功章	活動資金として一時または累計で50万円以上を納められた個人・法人等
4.	本社感謝状	金色有功章受章後、更に活動資金として50万円を納められた個人・法人等



▲金色有功章:個人(左:男性 右:女性)



▲金色有功章略章



▲金色有功章(法人)
銀色有功章(個人・法人)

② 国の表彰制度

項目		表彰基準
1.	厚生労働大臣感謝状	活動資金として同一年度内に100万円以上を納められた個人 活動資金として同一年度内に300万円以上を納められた法人等
2.	紺綬褒章	活動資金として500万円以上を納められた個人 活動資金として1,000万円以上を納められた法人等



▲紺綬褒章



10 奈良県支部有功会(令和5年度会員数:395人(令和5年12月現在)、昭和41年11月結成)

支部有功会は、日本赤十字社の金色有功章を受章された方々が赤十字思想の普及とその活動に寄与するとともに、会員相互の親睦を図ることを目的に結成した団体として活動しています。

また、6地区(奈良市都祁、奈良市月ヶ瀬地区、大和郡山市、宇陀地区、橿原市、生駒市)においては、地区有功会が組織され、会員の増強と赤十字事業を通じた地域活動に貢献しています。

- ① 総会(講演会も同時開催)を開催します。(7月)
- ② 全国赤十字大会へ参会します。(5月:東京都 明治神宮会館)
- ③ 赤十字運動や献血啓発の支援広告を掲載します。(随時)
- ④ 赤十字活動資金の協力、災害等の義(救)援金に協力します。
- ⑤ 日赤紺綬・有功会会長協議会総会に参加します。(10月:岩手県)
- ⑥ 赤十字看護専門学生への一部費用を助成します。
- ⑦ 本社の国際活動資金に協力します。
- ⑧ 地区有功会において赤十字事業の発展に尽くします。
- ⑨ その他支部事業の助言や提言などを行います。



▲有功会総会



▲全国赤十字大会参会



▲日赤紺綬・有功会会長協議会



▲生駒市日赤有功会総会



▲奈良市都祁日赤有功会総会

IV. 令和6年度 一般会計予算

I 令和6年度 一般会計予算

(歳入)					単位：千円
区 分		令和6年度 予算額	令和5年度 予算額	増減	付 記
1	社資収入	167,000	167,000	0	地区分区(市町村)及び支部を通じた個人、法人からの会費、寄付金
2	補助金及び 交付金収入	6,979	3,972	3,007	本社からの交付金
3	資産収入	100	100	0	支部災害救援車売却益
4	繰入金収入	20,000	32,000	△ 12,000	災害等資金、国際救護活動資金の繰入
5	雑収入	4,921	4,928	△ 7	講師派遣負担金収入、講習用教材費収入等
6	前年度繰越金	25,000	25,000	0	前年度繰越金
歳入合計		224,000	233,000	△ 9,000	
(歳出)					単位：千円
区 分		令和6年度 予算額	令和5年度 予算額	増減	付 記
1	災害救護事業費	55,200	71,000	△ 15,800	災害に備えた救護装備費、救助費、救護訓練費、救援物資整備費、救護看護師養成費
2	社会活動費	39,500	40,000	△ 500	救急法等講習普及費、奉仕団及び青少年赤十字育成費、血液事業普及費
3	国際活動費	1,100	1,100	0	バングラデシュ保健医療支援事業
4	指定事業 地方振興費	3,000	3,000	0	救護資機材整備費、救援物資整備費
5	地区分区 交付金支出	16,800	16,800	0	地区分区(市町村)における赤十字活動費
6	社業振興費	38,000	37,000	1,000	赤十字思想の普及啓発費、活動資金募集費、全国赤十字大会参加費
7	積立金支出	15,000	5,700	9,300	災害等資金積立金、退職給与資金特別会計積立金
8	総務管理費	27,000	30,000	△ 3,000	支部事業管理運営費
9	資産取得及び 資産管理費	1,550	1,550	0	施設、備品管理費
10	本社送納金支出	23,850	23,850	0	本社における国内、国際活動費
11	予備費	3,000	3,000	0	その他
歳出合計		224,000	233,000	△ 9,000	

(注)支部評議員会の運営

(i) 支部評議員会は、日本赤十字社定款第71条などの規定に基づき、定数45名の評議員が、支部長の諮問に答えるほか奈良県支部の役員選出及び支部の重要な業務について、審議にあたります。(開催時期 2月、6月)

(ii) 監査委員会は、支部評議員会で選出された支部監査委員2名で、奈良県支部の一般会計決算の監査を行います。(開催時期 5月)

2 令和6年度 活動資金募集お願い額一覧表

						単位：円
区分	令和6年度	令和5年度	区分	令和6年度	令和5年度	
奈良市地区	40,035,000	40,035,000	高市郡	高取町分区	724,000	724,000
大和高田市地区	7,877,000	7,877,000		明日香村分区	609,000	609,000
大和郡山市地区	9,749,000	9,749,000		計	1,333,000	1,333,000
天理市地区	8,277,000	8,277,000	北葛城郡	上牧町分区	2,388,000	2,388,000
橿原市地区	12,603,000	12,603,000		王寺町分区	2,427,000	2,427,000
桜井市地区	6,146,000	6,146,000		広陵町分区	2,647,000	2,647,000
五條市地区	3,871,000	3,871,000		河合町分区	2,007,000	2,007,000
御所市地区	3,509,000	3,509,000		計	9,469,000	9,469,000
生駒市地区	11,390,000	11,390,000	吉野郡	吉野町分区	1,114,000	1,114,000
香芝市地区	5,690,000	5,690,000		大淀町分区	1,972,000	1,972,000
葛城市地区	3,197,000	3,197,000		下市町分区	822,000	822,000
宇陀市地区	3,659,000	3,659,000		黒滝村分区	128,000	128,000
地区扱計	116,003,000	116,003,000		天川村分区	239,000	239,000
山辺郡	401,000	401,000		下北山村分区	197,000	197,000
山添村分区				上北山村分区	112,000	112,000
平群町分区	1,927,000	1,927,000		川上村分区	302,000	302,000
三郷町分区	2,558,000	2,558,000		東吉野村分区	341,000	341,000
斑鳩町分区	2,861,000	2,861,000		計	5,227,000	5,227,000
安堵町分区	881,000	881,000	吉野西	野迫川村分区	84,000	84,000
計	8,227,000	8,227,000		十津川村分区	601,000	601,000
川西町分区	900,000	900,000		計	685,000	685,000
三宅町分区	777,000	777,000	分区扱計	30,539,000	30,539,000	
田原本町分区	3,032,000	3,032,000	地区分区扱計※	146,000,000	146,000,000	
計	4,709,000	4,709,000	支部扱計	10,000,000	10,000,000	
曾爾村分区	216,000	216,000	(一般社資合計)	156,000,000	156,000,000	
御杖村分区	272,000	272,000	(法人社資合計)	11,000,000	11,000,000	
計	488,000	488,000	社資合計	167,000,000	167,000,000	

※ 「地区分区扱計」146,542,000 円の内、542,000 円は切り捨てて「支部扱計」に含んでいます。